

思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導
～言語活動の充実を通して～

I 研究の内容

本部会では生徒の実態を踏まえ、上記のようなテーマでここ数年研究に取り組んできている。コミュニケーションツールの変化や人間関係の希薄化、情報があふれている現代社会において、生徒達にとってより良い人間関係を構築していくための表現力や、自分で考え判断し、必要な情報を取捨選択していく力が、今まで以上に必要となってくる。国語科の果たす役割はますます大きく大きなものとなっていくであろう。

本年度は「ワールドカフェの手法を使って、自分の考えをひろげる」という内容で2本の研究授業を行った。他者の意見を取り入れることで視野が広がり、新たな視点から物事を考えられるようになることを目的とした学習である。

II 研究の成果

1 単元名 「挨拶」を読み、意見を交流しよう

～意見交流から、自分の考えをまとめよう～ 山梨南中 早川麻里教諭

課程	学習活動	教師支援・指導上の留意点	評価
導入 3分	1 前時までの振り返り 2 本時の目標を知り、学習の流れを確認する。 なぜ作者は「挨拶」という題名をつけたのか。作者の思いを捉えよう。	・生徒が見通しをもって学習に臨む姿勢を作る。	
展開 40分	3 「なぜ作者は『挨拶』という題名をつけたのか」というテーマで話し合いを行う。 ・グループに分かれ、ワールドカフェ（第1ラウンド～第3ラウンド） ・4人1組、8グループ ・第1・第2ラウンド5分 ・第3ラウンドのみ10分	・「ワールド・カフェ」での話し合いの目的・流れを確認させる。 ・テーマに対して、生徒たちが気軽に考えを出し合えるような、リラックスできる環境をつくる。	・観察 ・話し合いの様子

	4 全体での意見交流 20分 ・各グループで話し合われたことを発表する。 ・ワークシートに「友達のグッド意見をメモしながら発表を聞く。」	・各グループのシートを黒板に貼っていき、各グループの考えが見えるようにする。	・発表の様子 ・ワークシート
まとめ 7分	5 本時の学習を振り返り、自分の考えをワークシートに記入する。		・ワークシート

2 単元名 「ワールドカフェ」の手法を使って、自分の考えをひろげる

松里中 杉田由之教諭

	学習内容（生徒の活動）	教師の支援および指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習内容を確認→本時の課題を確認する ・「『ヤクーバとライオン』から何を学んだか」 2 本時の見通しをもたせる。 ワールドカフェの手法について確認する。	○授業の説明 ○課題の提示
展開 35分	3 『ヤクーバとライオン』を聞き、自分の考えを持つ。 ・自分の考えをプリントに書く。 4 小グループの中で意見交換① 5 グループを移動して2回目の意見交換。② 6 最初のグループに戻り、意見をまとめる。③	○電子黒板を使って絵本を表示し、朗読する。 ○書けなくても良いことを伝える。 ○時間を提示する。 ○紙の真ん中に「学んだこと」を書かせる。 ○記入と発表は誰でも良い。
まとめ 10分	自分が書くのに参考になる意見をプリントにまとめる。 『ヤクーバとライオン』から「学んだこと」という題で、作文を書いてくることを伝える。	○大切な部分だけを書き写す

3 総括

生徒の実態として、「登場人物の心情理解」「行動と理由の読み取り」に苦手意識を感じている生徒が多くいるという結果が出ている。豊かな表現力を身に付けさせるためにも、丁寧に読み取ること、根拠を明確にすることは、とても大切なことである。生徒同士の交流が活発になるとさらに効果的な授業が仕組めると思われる。

また、本部会では小学校・中学校の二部会に分かれての研究体制をとっているが、それぞれの研究に加え、冬季はお互いの授業交流を図り、子ども達の発達段階に応じた指導方法を学び合っている。今年度は中学校部会が授業提供をし、授業案検討や研究授業後の討議を行った。今後も小・中の連携を深めていきたい。

（部長 佐々木 梢）